

インドネシア

「グリーン・ウォール」の普及と拡大

現地からのお便り（2017年7月～2018年6月）

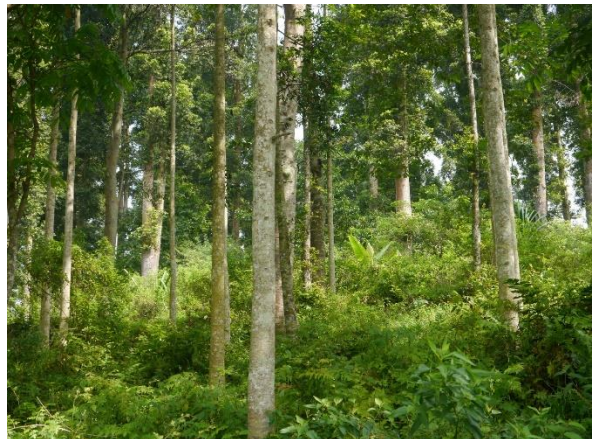
2018年8月

コンサベーション・インターナショナル

2008年から始まったダイキン工業、グデパングランゴ国立公園、そしてCIのパートナーシップは今年10年を迎えました。グデパングランゴ国立公園での取り組みは、コミュニティによる合計300ヘクタールの森林再生により、国立公園を守り、同時に地元コミュニティに経済的な便益をもたらす「グリーン・ウォール（緑の壁）」を築くものです。

森林再生地

33人の地元コミュニティメンバー、そして17名の国立公園スタッフと共に、毎月のモニタリングを継続しました。植えられた木々は、極端な気象や病気に対して十分に強くなるまで、大きく育ちました。2017年11月に調査したところ、生存率は95%で、12万本植えた内の約11万4千本が生存していました。



グリーンウォールの木々の様子

野生生物のモニタリング

森林再生の目的の一つは、荒廃した土地を野生生物の生息地として回復することです。自動撮影カメラを活用しながらモニタリングを行った結果、少なくとも9種の野生動物が森林再生地を活用していることが確認されました。



マレーシアクマネズミ



カニクイザル



イノシシ



ジャワマンゲース



パームシベット



コジャコウネコ



カンムリワシ



ベンガルヤマネコ



ジャワヒョウ

看板

現在、5つの看板がプロジェクトサイトに立っています。毎月見回り、良い状態であることを確認しました。



看板1号



看板2号



看板3号



看板4号



看板5号